

スペイン日本語教師会 第2回総会および研修会

日時： 2011年2月11日(金)

場所： 国際交流基金マドリード日本文化センター1階(Planta baja)
(C/Almagro 5, Madrid)

プログラム:

9:30~9:45 主催者挨拶 (上野宏之 国際交流基金マドリード日本文化センター)
(鈴木裕子 スペイン日本語教師会会長)

9:45~10:00 ご挨拶

10:00~10:40 スペイン日本語教師会 総会

- 活動報告 (鈴木裕子)
- 会計報告 (益子夏実)
- HP、出版物報告 (藤野華子)

10:40~11:10 第一回新日本語能力試験結果報告

マドリード (高木香世子 マドリード・アウトノマ大学)
バルセロナ (福田牧子 バルセロナ・アウトノマ大学)

11:10~11:40 コーヒー休憩

11:40~13:40

基調講演 「初級を教える：初級文法教育の活性化―「文脈化」と「個人化」による表現指導」

川口義一 (早稲田大学大学院日本語教育研究科 教授)

キーワード：初級教育・文法教育・表現指導・「文脈化」・「個人化」

本講演のねらいは、初級の文法教育に「文脈化」と「個人化」という概念を導入することによって、単調なドリルの繰り返しと化した初級の文法教育を活性化させ、外国語教育の目的たる「学習者の自己開示と他者理解による人間的相互交流」を実現することができることを示すことにある。この主張の妥当性を証明するため、講演者が過去10年間にわたって行っている初級教育実践と、最近開始した「初級教授法研究会」の活動を、それぞれ紹介する。

議論を具体化するために、現在初級クラスの主教材として使用中の『みんなの日本語』の文法教育上の問題点をとり上げ、文法項目導入については適切な文脈が準備されていないという点を、既習項目の練習については学習者にとって有意義な練習を目指す理念が欠落しているという点を、それぞれ批判し、「文脈化」「個人化」理念の徹底によって、創造性に富む教室活動が、しかも支持的な教室風土の中でいかに可能になるかを示す。

13:40~15:00

昼食 ・ ミニコンサート (川口義一)

15:00~16:30 ワークショップ 「音声を教える」

中川千恵子（早稲田大学日本語教育研究センター 講師）

入門期や初級の発音指導について指導法を紹介するとともに、参加者のみなさんと、スペイン人学習者にはどのような指導を行うことがよいかということを考えたい。発音は自然に習得するものだ、伝わればいい、スペイン人にとって、日本語の発音は難しくないから学習する必要はないと考える人が多いかもしれない。しかし、日本語レベルが上がるに従って、「なんだか自分の発音に問題があるようだ」「もっと説得力ある伝わる話し方をしたい」「ワープロで書くときに間違えるのは発音のせいなのか」などと感じる学習者も多々いるようだ。そうした問題は、入門期からきちんと発音指導を行うことで、ある程度回避できると思われる。このワークショップでは、単音およびリズム・アクセント・イントネーションなどのプロソディーについて、モデル音声によるものだけでなく、視覚的な指導法も紹介する。また、これまで10年以上行ってきた大学の授業実践の一部を紹介したい。

16:30~16:45

休憩

16:45~18:15 ワークショップ 「初級教科書分析」

熊野七絵（国際交流基金マドリード日本文化センター 日本語上級専門家）

初級レベルの場合、特定の教科書を中心に、課の順番に沿って教えていくことが多いと思うが、同じ教科書を使い続けていると、教え方もマンネリ化しがちである。このワークショップでは、複数の初級総合教科書について、グループで全体分析と課分析を行う。実際に教材を切り貼りし、授業の流れに沿って整理する作業を通して、各教材のねらいや特徴を捉え、初級教材を効果的に使い、授業に生かす新たなヒントを見つけていければと思う。

18:15~18:30 閉会式